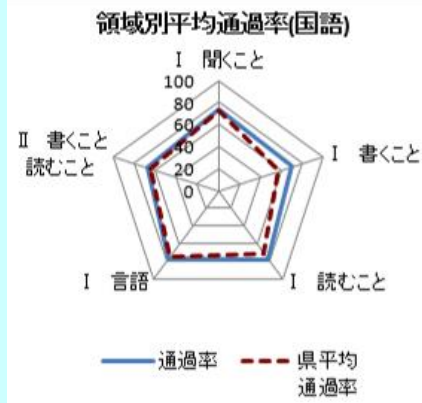


指導方法等の改善計画について 〔国語科〕

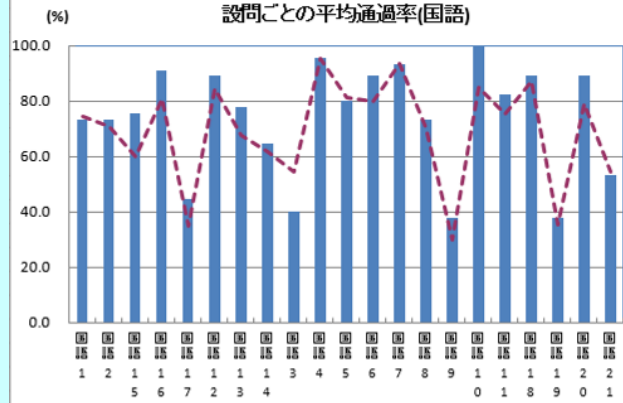
東広島市立高美が丘中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校73.8%, 県69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

タイプIは75.3%, タイプIIは67.2%, 教科全体では73.8%の通過率となっている。この結果から、教科で学習した知識・技能を活用する力にやや課題があると思われる。また、基本的・基礎的な内容についても、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「小3の漢字の書き(始動)」(37.8%)や「事象や行為などを表す多様な語句」(40.0%)のように、定着が不十分だと思われる領域がある。

○昨年度の課題への取組への成果

昨年度は、「書くこと」の複数の文章を読み、文章に表れているものの見方や考え方に関する情報を取り出して自分の考えを書くことに課題がみられた。そこで、様々な資料から必要な情報を読み取り、記述する問題に取り組み時間を授業で設定することで、情報の取り出し・整理(89.2%)については一定の成果が見られた。しかし、要旨の把握(37.8%)などの文章全体をまとめること、また、取り出した情報を自己の言葉として捉え直すことに関しては未だ課題が見られるため、引き続き取組が必要であるとする。

重点課題

【課題1】

タイプII「書くこと・読むこと」において、必要となる情報を読み取ることについてはある程度できているものの、設問条件に見合った形式で再変換することに課題がみられる。(通過率37.8%)

【課題2】

タイプI「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、漢字の書き問題で前後の文章から漢字を考えることができず、思い付いた漢字を書いてしまう傾向がみられる。(通過率37.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

文章全体を要約する機会を増やし、要約のためのキーワードとなる語を確認するとともに、その語と語のつながりを考えさせる場を設定する。同時に様々な条件設定を含んだ記述問題に取り組み、問題文を正確に理解するための演習を行う。

【課題2】

漢字には一字一字意味があり、複数の漢字で構成される語であってもそれは同じであることを確認する。さらに、前後の文章から語句を推測する場を多く設定し、根拠を持った解答を導き出すための演習を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期中間試験		2年 H29 基礎・基本	2年 H29 基礎・基本 1年 H29 基礎・基本	1・2年生 後期期末試験
目標値			60%		65%	70% 65%	70%
実施後数値							

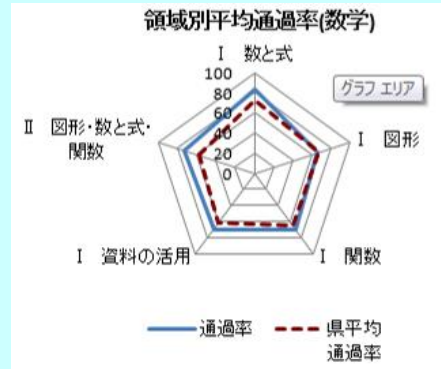
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期中間試験		2年 H29 基礎・基本	2年 H29 基礎・基本 1年 H29 基礎・基本	1・2年生 後期期末試験
目標値			60%		65%	70% 65%	70%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [数学科]

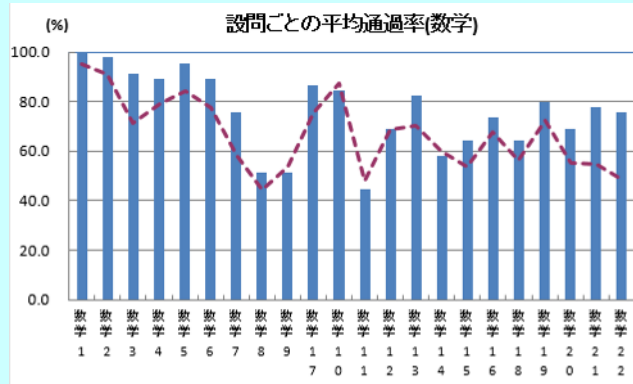
東広島市立高美が丘中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校75.9%, 県66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
 本年度の結果において、タイプⅠは76.6%、タイプⅡは73.3%、教科全体では75.9%の通過率となっている。この結果から基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、領域別にみると、図形領域(通過率65.9%)と資料の活用(通過率68.9%)にやや課題があると考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果と課題
 昨年度は①割合を含む数量の関係を文字式で表すこと、②資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することにおいて課題が見られた。そこで、①については様々な割合の文章題に取り組む中で、比較量を(基準量)×(割合)で求める。②については証明などの単元を利用して、根拠をもとに説明する。の2点を工夫し取り組みを行った。この結果、①の課題と類似した問題の今年度の通過率は75.6%(昨年度51.4%, 43.2%)、②の課題の類似問題の今年度の通過率は68.9%だった。(昨年度51.4%)

重点課題

【課題1】

(大問4) 文字式の読みの問題に課題がある。(通過率51.1%) 数量の関係を正しく捉えられていないため、文字式の意味を読み取ることができない生徒がいる。

【課題2】

(大問6(1)) 円錐と円柱の体積の関係の問題に課題がある。(通過率44.4%) 底面が合同で高さが等しい円錐と円柱の体積の関係について、円柱の体積=円錐の体積×2 としている生徒が20.0%、それ以外の誤答の生徒が31.1%いる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

数量の関係を捉えさせる場面では、問題文だけでなく、具体物や絵などを示してイメージを持たせたり、具体的な数をあてはめて考えさせたり、関係をことばで整理させるなどの工夫をする。

【課題2】

体積の関係を調べさせる実験の場面では、一方的に演示するのではなく、生徒に体積の関係を予想させた後、正しいかどうかを実験による測定で確かめさせるよう生徒自らが実験できる機会を設定する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	1, 2年 単元テスト					2年 H29「全国学力」	1年 H29「基礎・基本」
目標値	70.0%					70.0%	70.0%
実施後数値							

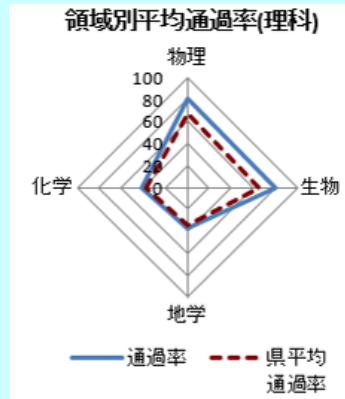
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						2年 H29「全国学力」	1年 H29「基礎・基本」
目標値						70.0%	70.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について〔理科〕

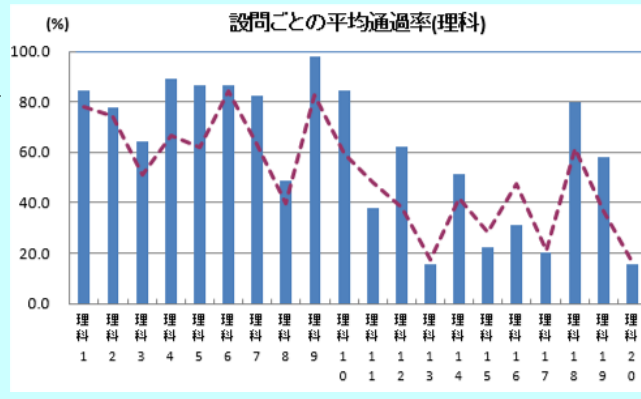
東広島市立高美が丘中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校59.8%, 県50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○理科の結果において、本校の通過率は、タイプⅠは63.9%、タイプⅡは53.6%、教科全体は59.8%であった。いずれも広島県の平均通過率と比べ高い水準であることから、相対的には基礎的・基本的な内容について定着が図られていると考える。しかし、通過率が県平均を下回る問題が20問中6問あり、それらの傾向の分析と対策が求められる。

○昨年度の課題への取り組みの成果と課題
 昨年度は、「机がボールを支えている力を矢印であらわすこと」に課題があった。(通過率13.5%) 力が「どこで」「どちらに」「どの大きさで」はたらいっているかをはっきりさせる反復学習に取り組んだ。
 「沸点とちがいを利用し、物質を分ける操作についての理解」に課題があった。(通過率25.7%) 「蒸留」と「再結晶」のちがいを現象面から理解させる反復学習に取り組んだ。
 「通過率30%以下の生徒」が全体の12%いた。授業開始5分程度の時間で、確認問題に取り組んだ。

重点課題

- 【課題1】「地層の広がり方」に課題がある。(通過率22.2%)
- 【課題2】「密度の定義と式」に課題がある。(通過率31.1%)
- 【課題3】「砂岩と判断する根拠」に課題がある。(通過率15.6%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- 【課題1】
等高線と、そこから地下に掘り下げて見つかる地層のつながりを、縦方向の見方でとらえることができていない。同様の問題は多く見られるため、反復問題で定着を図るとともに、モデルなどで具体的に理解させる必要がある。
- 【課題2】
「密度」が物質1cm³あたりの質量であること、物体の質量を体積で割ることによって求められること、物質を比較する手がかりの一つとなることを、基本的な内容に振り返り、理解・定着させる必要がある。
- 【課題3】
岩石を構成する粒の形状から火成岩か堆積岩か判断できること、岩石を構成する粒の大きさから堆積岩の分類ができること、以上の2点について基礎知識の定着を反復学習で定着させる必要がある。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生後期中間テスト		2年生H29「基礎基本」	1年生H29「基礎基本」	1・2年生後期末テスト
目標値			30.0%		40.0%	40.0%	50.0%
実施後数値							

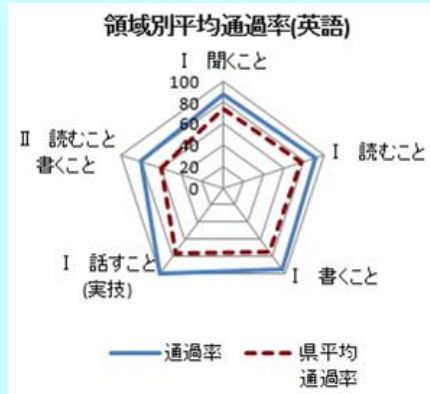
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生後期中間テスト		2年生H29「基礎基本」	1年生H29「基礎基本」	1・2年生後期末テスト
目標値			40.0%		50.0%	60.0%	60.0%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について [英語科]

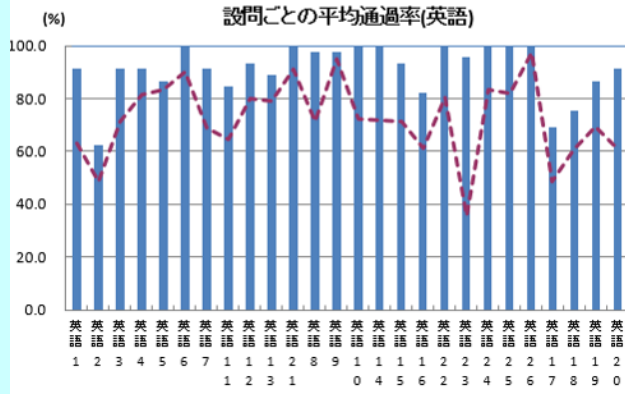
東広島市立高美が丘中学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校91.1%, 県72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向として、タイプⅠの平均通過率が93.0%、タイプⅡの平均通過率が80.6%となっており、基礎的・基本的な内容については十分な定着が図られていると考えられる。一方で、タイプⅠの「英語での問いかけに対する適切な応答」やタイプⅡの「根拠となる英文の読み取り」などに課題が残っている。

○昨年度課題であったタイプⅠの聞くこと「概要や要点の把握」(通過率41.9%)、タイプⅡの読むこと・書くことの「適切な質問を考え英文を書く」(通過率52.7%)は生徒の誤答を分析し誤りやすいポイントを帯学習の中で継続して練習をさせたり、計画的に自己表現活動を行ったりした結果、通過率がそれぞれ100%と75.6%に上昇した。

重点課題

【課題1】

・タイプⅠの聞くこと「英語での問いかけに対する適切な応答」では、“Sure”という応え方が理解できていない。(通過率62.2%)

【課題2】

・タイプⅡの読むこと・書くこと「根拠となる英文の読み取り」では、「なぜそういったのか」という理由を日本語で書くことができていない。(通過率68.9%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

・会話文において、あいづちや応答表現を日々の学習の中で使用する場面を多く設定する。また、表現をまとめたワークシートを活用させたり、ペア活動での1分間チャットをさせたりすることで表現に慣れさせる。リスニングテストは定期的に行い、自然のスピードで話された英語を聞き取れるよう指導する。

【課題2】

・長文を読む練習、特に意味のまとまりごとに英語の内容を把握し概要を正しく理解するため、スラッシュリーディングを取り入れる。また、段落ごとに要点をつかませたり、具体的に代名詞が何を指すのか質問したり、理由をたずねたりする活動をくり返し行い、根拠をもって文を読み取れるよう指導する。

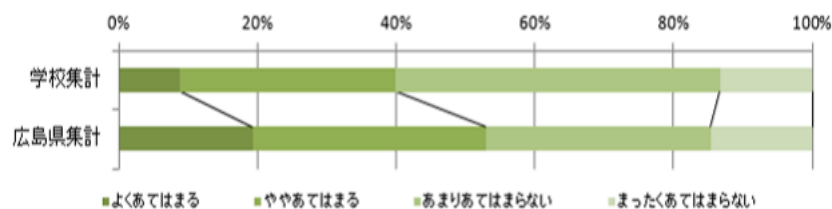
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期中間試験		2年生 H29「基礎・基本」	1年生 H29「基礎・基本」	1・2年生 後期期末試験
目標値			65.0%		70.0%	65.0%	75.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2年生 後期中間試験		2年生 H29「基礎・基本」	1年生 H29「基礎・基本」	1・2年生 後期期末試験
目標値			70.0%		75.0%	70.0%	75.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

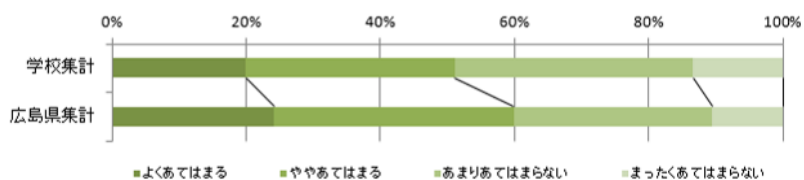
自分で勉強の計画を立てています。



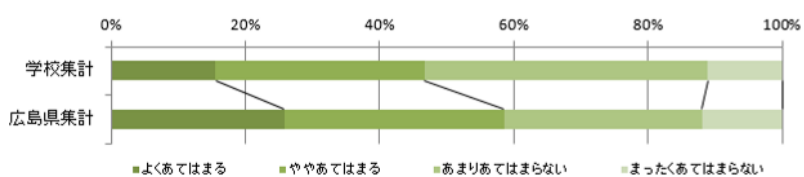
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
自分で勉強の計画を立てています。 (現状値 40.0%)	HR や学級懇談、三者面談等において、計画的な学習の必要性や具体的な方法について話しをする。さらに各教科の提出物等の提出状況を教科担当者と日常的に連携し、計画的に学習できていない生徒に対して家庭とも連携しながら個に応じた支援を実施していく。また、定期テストの際に、テストに向けた学習計画を各自で立てさせ、計画に基づいて学習を進めることができるよう支援する。	2 学年	60%	生徒アンケート	2月		

(2) 教科

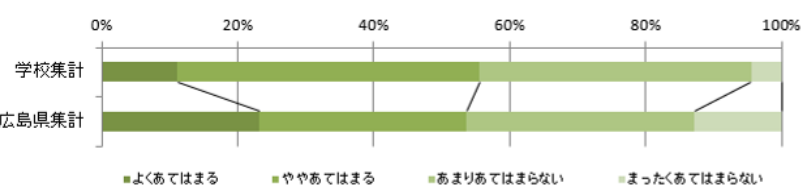
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



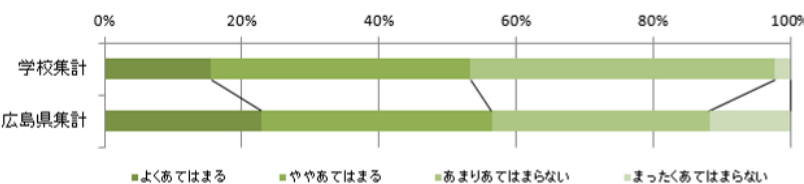
数学の授業では、式が何を表しているのかを考えたり、式に当てはまる問題をつくったりしています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見を話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。 (現状値 51.1%)	文章の論理性やことばの学習をするとき、発表や意見交流の活動を増やし、自己の意見や思いを伝えるためにはそれらの知識が不可欠であることをその都度確認させる。	全学年	60%	生徒アンケート	2月		
数学	数学の授業では、式が何を表しているのかを考えたり、式に当てはまる問題をつくったりしています。 (現状値 46.7%)	文字式や方程式を学習するとき、式の表す数量を考えたり、問題をつくったりする活動を授業の中で設定する。	全学年	60%	生徒アンケート	2月		
理科	理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。 (現状値 55.6%)	実験や観察を行うとき、結果の予想や、結果からの考察を、交流・発表させる機会を積極的に設定する。課題発見・解決の流れを意識させる。	全学年	60%	生徒アンケート	2月		
英語	英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見を話したり書いたりしています。 (現状値 53.3%)	英文を読んだり聞いたりするとき、5W1Hを意識させ、内容の項目についてメモを取る習慣をつけさせる。また、理由を付けて話したり書いたりするような場面を日々の授業の中にもっと設定する。	全学年	60%	生徒アンケート	2月		